

博物館施設管理・リスクマネジメント調査のまとめ

リスクに上手に対応できなかった場合は、来館者や職員が死傷したり、博物館の対処を批判する報道がされたり、行政処分を受けたり、来館者が大幅に減少したりして博物館の運営自体が脅かされる事態になります。また、災害時に来館者を助けられなかった、資料を守れなかったと職員が心の傷を負う場合や、博物館側の対応が不十分で利用者が嫌な思いをしたり、博物館を「怖い場所だ」と認識したり、二度と来館していただけないことがあるかもしれません。

このような事態を避け、経営者・管理者・職員・ボランティア・利用者が「安心できる博物館」にするために、以下の表 9 を参考に博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブックの基礎編、実践編、発展編をご活用いただければ幸いです。

表 9 ガイドブックの読み方のヒント

各リスクへの対策や応急対応を知る	館長 リスクマネジメント担当者 職員 アルバイト	ガイドブック基礎編 第 2 編 ガイドブック実践編 第 4、5 部 ガイドブック発展編 第 2、4 部
自館のリスクマネジメントを行う ・ 自館のリスクを知る ・ 計画やマニュアルをつくる ・ 訓練する	館長 リスクマネジメント担当者	ガイドブック基礎編 第 1 編 ガイドブック実践編 第 2、3 部 ガイドブック発展編 第 1 部
災害時に役立つネットワークを作る	館長 リスクマネジメント担当者 職員	ガイドブック基礎編 第 3 編 ガイドブック実践編 第 6 部 ガイドブック発展編 第 3 部
博物館の制度におけるリスクマネジメント上の留意点を考える	館長 行政関係者	ガイドブック基礎編 第 3 編 ガイドブック実践編 第 6 部 ガイドブック発展編 第 1 部